

# 令和 7 年度 学校自己評価システムシート (武南高等学校)

目指す学校像	豊かな人間性の確立を目指し、学力の向上、健康な心身の育成を図り、志を高く持ち、21世紀の社会に貢献できる自主・自立・自学・協同の精神に満ちた生徒を育成する。
--------	--------------------------------------------------------------------------------

重点目標	1 授業の充実・指導改善 2 開かれた学校づくりの推進 3 学力の向上と希望進路の実現 4 品格ある生徒の育成 5 特別活動、部活動の充実と振興
------	-----------------------------------------------------------------------------

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学校関係者	2名
-------	----

学校自己評価							
年度目標					令和7年度評価(3月17日現在)		
番号	評価項目	現状と課題	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	授業の充実・指導改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業研究週間が定着し、教科で意見交換ができるようになってきている。授業の指導改善のための方策を検討。</li> <li>生徒による授業評価を教科全体で共有できているが、授業改善につなげているとはいえない。</li> <li>共通テスト問題を含め、大学入試問題の研究を教科全体で進めている。今後は、研究内容を授業にどう落とし込むかが課題である。</li> <li>他校訪問等が実施できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業研究週間を活用し相互に、各教科でテーマを決めて授業参観を行う。</li> <li>国語、数学、英語において、外部講師を招いての授業研究会を実施する。</li> <li>生徒による授業評価をもとに、各自がどう授業改善を図ったかを検討する。</li> <li>共通テストを含め、大学入試問題の研究を授業でどう実践するかを検討する。</li> <li>管理職全員による授業観察を実施し、教職員にフィードバックする。</li> <li>他校視察や研修会に参加して役立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業研究週間においてテーマを決めた授業参観が実施できたか。</li> <li>管理職による授業観察の回数とフィードバックの内容等。</li> <li>校内で外部講師を招いての研修が実施できたか(国語・数学・英語)。</li> <li>生徒による授業評価をもとに授業改善を進められたか。</li> <li>大学入試問題研究の成果を授業で実践できたか。</li> <li>他校視察と研修会等への参加状況。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科でテーマを決め相互に授業観察、教科会で意見交換。</li> <li>国語、数学、英語科で各教科のテーマに基づき外部講師を招いての研修会を実施した。</li> <li>生徒による授業評価を教科で検討し授業改善に役立てた。</li> <li>大学入試問題を各授業の中に取り込むよう努めた。</li> <li>他校視察のほか、初任者研修をはじめ、5年前後経験者研修、中堅教員研修を実施し、教員の力量の向上を図った。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業観察週間では授業改善の観点を明らかにして検討する。</li> <li>新課程の入試にどう取り組むかを全体で検討する必要がある。</li> <li>授業評価を教科毎に研究・検討をする取組を一層進める。</li> <li>教育課程が実施されて5年が経過、見直しと検討を行う。</li> <li>次年度は公、生物、情報において外部講師を招いての研修を実施する。</li> <li>他校への見学を含め、教職員の研修の機会を増やす。</li> </ul>
2	開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動を中心として、地元の小中学校等との交流が進められている。</li> <li>蕨・川口地区の地域に開かれた取り組みを一層進める必要がある。</li> <li>組織的にホームページの更新が図られていない。</li> <li>武南学園の魅力を一層発信することが大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元の小中学校と合同でコミュニティセンターでの交流や発表を実施する。</li> <li>中学校訪問による情報提供の機会を広げ、入試情報の提供を行う。</li> <li>組織的にホームページを更新し、情報の発信に努める。</li> <li>「武南学園だより」を発行して、武南学園の魅力を発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校との交流やコミュニティセンターとの連携が図れたか。</li> <li>蕨市の催し物への参加回数。</li> <li>中学校への学校訪問と情報提供の回数等はどれくらいであったか。</li> <li>組織としてホームページを更新できたか。更新回数や閲覧状況等。</li> <li>学園通信の発行回数と内容等。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>吹奏楽部が蕨市内でXmasコンサートを実施した。</li> <li>吹奏楽、書道、合唱、美術が生涯学習フェスに参加。</li> <li>蕨市青少年祭りにボランティアとして36名が参加した。</li> <li>蕨市放置自転車・防犯街頭キャンペーンに14名が参加。</li> <li>中学校169校を訪問し、32,600部広報誌を配布。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化部での地域との交流を一層積極的に進めるとともに、さらに連携の方策を模索する。</li> <li>引き続き、中学校を訪問し適切な情報の提供に努める。</li> <li>ホームページと部活動のホームページやSNSを連携させ、最新の情報の提供に努める。</li> <li>学園だよりの月一回の発行。</li> </ul>
3	学力の向上と希望進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>予習、復習を徹底させることで家庭学習時間を一層増加させる必要がある。</li> <li>ICTを活用した学力向上の取組が進められている。</li> <li>ガイダンスの充実により希望進路の目標を高く設定する生徒が増えている。</li> <li>生徒の進路選択の幅が広がり、地方への国公立大学進学を希望する生徒が増加している。</li> <li>教科等での組織的な講習の充実が図れていない。難関大への対策が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「予習→授業→復習」を意識した授業作りや、週末課題、小テスト等の実施により家庭学習時間の増加につなげる。</li> <li>「社会人から学ぶ」をはじめとした各コース別進路ガイダンス、説明会等をいっそう充実させる。</li> <li>生徒の志を高めるために講演会やセミナーを企画する。</li> <li>進路指導部と教科で組織的に実効性のある講習会を実施する。難関国公立大、難関私大向けの向けの講習会も実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通常講習、夏期講習、冬期講習等の講座数と受講者数。</li> <li>組織的に講習会が企画・運営がなされたか。</li> <li>各種ガイダンスや説明会の実施回数とアンケート結果。</li> <li>講演会やセミナーを実施した時の参加者の人数やアンケート結果。</li> <li>一般受験の生徒数と国公立大学の志願者数。</li> <li>国公立大学、難関私立大の合格者数。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通常講習 全27講座351名。夏期講習全76講座、1,939名が参加した。</li> <li>進路ガイダンス10回実施し進路意識の高揚を図った。</li> <li>国立大学合格者数26名(42)</li> <li>早慶上理大合格者数名10名(12)</li> <li>GMARCH合格者数73名(97)</li> <li>成成明学獨国武107名(151) (2026/3/18現在)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織的で実効性のある講習の体制作りを一層構築する必要がある。</li> <li>生徒の高い志を育むため、海外研修を企画し、武南学園の魅力づくりの一助とする。</li> <li>キャリアモデルとしての卒業生の講座とともに、様々な分野の専門家の講演会等を実施する。</li> <li>国立大学の魅力を発信する。難関私立大学を含めた生徒の進路希望の実現に努める。</li> </ul>
4	品格ある生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>明るくさわやかな挨拶を徹底するよう引き続き指導することが必要。</li> <li>生徒指導心得の見直しの検討が必要。</li> <li>日常の学校生活の中での整容指導や遅刻指導を一層進める必要がある。</li> <li>ネットモラルの構築や、それに関わるいじめを許さない指導の徹底を図る。</li> <li>特に問題があるわけではなく、心の不調を訴え、欠席がちになる生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登校指導をはじめ、全教職員が率先してあいさつの励行に努める。</li> <li>生徒の意見を参考にした生徒指導心得の見直しの検討を行う。</li> <li>整容指導は、日常生活の中での指導を徹底する。</li> <li>ネットモラルの講義をはじめ、ネットいじめに繋がらないよう努める。</li> <li>担任、スクールカウンセラーや教育相談員との連携を図って指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒は明るくさわやかな挨拶ができるようになったか。</li> <li>生徒の意見を参考にした生徒指導心得の見直しのための検討が進められたか。</li> <li>日常の服装頭髪といった整容指導は徹底できていたか。</li> <li>生徒指導件数、ネットトラブル件数はゼロであったか。遅刻指導の減少。</li> <li>教育相談室での相談件数の減少。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>明るくさわやかな挨拶ができるようになっている。</li> <li>新しい生徒指導の懲戒規定を策定できた。</li> <li>生徒指導心得の検討は進んでいるが実現に至っていない。</li> <li>生徒指導7件(昨年4件)。</li> <li>遅刻指導数25人(昨年26)</li> <li>教育相談の相談件数は、延べ122件(生徒80件 保護者42件)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、明るくさわやかな挨拶がしっかりとできるよう指導することが大切である。</li> <li>多様な価値観にも配慮した生徒指導の在り方を検討し、生徒指導心得等の見直しを実施する。</li> <li>ネットトラブルを防止するための取組を粘り強く行う。</li> <li>家庭と連携して引き続き、基本的な生活習慣の確立を目指す。</li> <li>教育相談体制の充実を図る。</li> </ul>
5	特別活動・部活動の充実・振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動で「自主、自立、自学、協同」の精神の涵養を図る必要がある。</li> <li>部活動に偏り、勉強と部活動の両立が図れていない生徒が多く見られる。</li> <li>運動部のみならず、予算措置を含め、文化部の振興を図るよう努める。</li> <li>今後とも、文化祭、体育祭の実施により、学校生活への意欲や学園への帰属意識を高める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒各々が自主的・計画的に時間を管理できるよう指導する。</li> <li>各部活動で休養日の設定を図り、家庭学習時間の確保と部活動の活性化を図る。</li> <li>適宜、管理職による部活動見学を行い、実態の把握と支援を行う。</li> <li>文化祭、体育祭は段階的に保護者を入れての実施を目指し、生徒の学校生活への意欲や学園への帰属意識を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動の加入率と参加状況。</li> <li>部活動加入生徒の学習の成績状況。</li> <li>関東大会、全国大会の出場者数と前年度の活動結果を上回った部活動数。</li> <li>文化祭、体育祭の実施状況と満足度。</li> <li>文化部の活動状況と各種大会等への参加状況。</li> <li>オーストラリア修学旅行の実施状況と生徒の満足度。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活の加入率91.0%(88.1%)</li> <li>関東大会(柔道、陸上)・全国大会入賞(ダンス部)インターハイ出場(柔道部・水泳部優勝・8種目入賞)・書道部-読売書法展入選、埼玉書道展知事賞受賞・美術部、埼玉県高校美術展優良賞受賞。</li> <li>海外修学旅行(オーストラリア)を無事に実施した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も部活動の加入を勧め、建学の精神の涵養に努める。</li> <li>今後も文化部の活性化の方策を検討し、振興を図る。</li> <li>部活動の休養日の設定を進め、家庭学習時間の増加を図る。</li> <li>引き続き暑さ対策のため、体育祭を空調付きの体育館で行う。</li> <li>来年度以降オーストラリア修学旅行を実施することが決定。</li> </ul>

学校関係者評価	
実施日	令和8年3月18日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善のアンケートで大切な点は生徒からの評価をどのように取り入れるかだと思う。その点をアンケートの実施、本人へのフィードバック、教科会で議論するなど段階を踏んでいる点が評価できる。評価が低い場合、原因を探ることが大切である。</li> <li>研修は先生方の意識の持ち方で効果が変わるので、効果測定と意識の持ち方が一過性の義務による参加にならない工夫が必要だと思う。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域が学校とどのように連携できるか模索している。PC教室や人的交流の場となるソフト面の強化が大切である。生徒会などの交流プロジェクトなど今後考えていきたい。</li> <li>地域活動として防災訓練などの行事にもボランティアとして積極的に参加されることを希望する。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>年々、進路実績が上がっていると思う。生徒の意識は高まっているが部活動との兼ね合いで両立が難しくなっていくと思う。今後はその点が課題となる。</li> <li>進路指導では「進路探索ストーリー」として展開している点が評価できる。目標が定め易くなるのでよいと思う。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>SNSに動画を上げるなどのトラブルにどのように対応しているか参考になった。講演会やネットの制限など具体的な対応がなされている。</li> <li>生徒のみではなく、今後、父母の会からも保護者に対するトラブル防止の協力依頼などを積極的に進めるとよい。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>中学では部活動をする時間がないので、部活動を地域に移行させる方向にある。今後は働き方の改革が進み、高校での部活動のあり方も考えていく必要がある。</li> <li>全国大会に出場する機会が増えれば遠征費の負担も大きくなる。受益者負担とは言え、遠征費用について部活動で不公平がでないようにして欲しい。</li> </ul>	